



地域包括ケアシステムの進化と深化

村中町長

関係機関等と協議を深め 一体的な地域包括ケアシステムを目指す



さとう よしひこ
佐藤 良彦 議員

□質問・佐藤議員

2025年には団塊の世代は後期高齢者（75歳）となり、高齢者は約3,624万人で、総人口に占める割合（高齢化率）は29・3%、後期高齢者だけでも2,000万人になると推測されています。

また、2022年の1人当たりの医療費は、65歳までの平均が18万円と言われていますが、75歳以上になると95万円まで膨れ上がります。そのため、必要な医療費が増えれば財源を補うために生産年齢人口における社会保障費の徴収が増えることも懸念されます。

2024年の診療報酬改定以後、これまでの急性期病院を中心とした「病院完結型」の医療から転換し、患者が身近な地域で、それぞれの医療機関が役割を分担・連携して、切れ目のない医療を提供することを目指すのが「地域完結型医療」です。

比布町で例えるならば、ぴっぷクリニックの指定管理者である元生会と連携、もしくは周辺医療施設で「訪問医療・在宅医療・在宅療養」ができる体制づくりを早期に実現しなければならぬと考えます。

小規模自治体としての優位性を活かし、フレキシブルで柔軟な取り組みとして「一体的な地域包括ケアシステムの確立」を早期に実現すべきと考えますが、町長の考えを伺います。

■答弁・村中町長

本町においては、令和8年3月末現在で65歳以上の高齢化率は43・9%、75歳以上の後期高齢化率は27・6%と高い状況です。

地域包括支援センターと社会福祉協議会では、地域の高齢化やボランティアの担い手不足のなか、「お互いが見守りあう」小規模自治体ならではの地域づくりを目標とし、自分や家族、近隣の方に対し、リハビリ体操の普及啓発活動を町民自ら実施できる場の提供を行い、介護予防として木曜体操やピピリハ健康体操事業へ参加を促しています。

また、保健分野においては、特定健診や後期高齢者健診の実施、健診受診者への個別保健指導や重症化予防のための訪問を行い、地域や通いの場へ外出き、生活習慣病予防講話等のポピュレーションアプローチを実施しています。

医療については、平均寿命が男性で80歳近くなり、女性では86歳を超える社会では、複数の疾病を抱えるなどの特徴を持つ高齢期の患者が多く、病気と共存しながらQOLの維持、向上を目指す医療、住み慣れた地域や自宅での自立した生活のための医療、地域全体で治し、支える、「地域完結型」の医療にシフトしていかなければなりません。

ません。

ぴっぷクリニックでは、現在は外来のみの対応ですが、入院や検査が必要な場合は、元生会（森山病院）及び旭川市の5大病院等と連携し、必要な医療につなげていきます。

しかし、85歳以上が増加する2040年頃には、在宅を中心に入院を繰り返す、終末期には看取りを要する高齢者を支える医療を提供する必要がある、その際には、かかりつけ医機能の確保や在宅医療の強化、介護との連携強化等が重要です。

指定管理者である元生会においては、在宅での医療提供の充実を目指していることから、人材の確保や採算性などの課題はありますが、協議を深めていく必要があると考えています。

町民の皆さんが不安なく治療し、地域に戻っても必要な医療・介護・福祉サービスが受けられ、安心して生活できることは、多くの町民の願いであるとともに、「住んで良かったと思えるまちをめざして」の実現につながると考えますので、これからも本町の優位性を活かした「一体的な地域包括ケアシステムの深化」に努力してまいります。



一般質問 スバリ！ここが聞きたい

高齢者等移動支援サービスの わかりやすい周知を

村中町長

問い合わせや相談による説明に加えて
紙面等によるわかりやすい周知に努める



えん どう はる こ
遠藤 ハル子 議員

□質問・遠藤議員

比布町では、道北バスやJRなどの公共交通機関が利用できる一方で、高齢者にとっては旭川市への通院や買い物などに不安を抱える方も多く、ぴびたくや福祉有償運送などの移動支援サービスは、日常生活を支える大切な制度です。

しかし、利用者の中には、「どのサービスを利用できるのか分かりづらい」「介護認定を受けている場合の利用条件が理解しにくい」「申し込み方法や利用基準が十分伝わっていない」といった声も聞かれます。

利用者が制度内容を正しく理解し、自分に合ったサービスを安心して利用できるよう「利用基準や各サービスの分かりやすい周知」が必要だと思いますので、町長の考えを伺います。

■答弁・村中町長

利用者の皆様には、予約が混んでいる場合などは、時間や日程を変更して運行へのご協力をいただいておりますことに感謝を申し上げます。

これまでも問合せがあった場合は、町・社協において身体状況などの聞き取りを行い、それぞれ該当するサービスの利用につなげてきており、ケアマネジャーや地域包括支援センターを経由してサービスを

申請いただくこともあります。

問合せや相談による説明に加えて紙面等によるわかりやすい周知に努めます。

□遠藤議員 ぴびたくの昨年度1年間の登録者数は247人、延べ利用回数は1,697人、全体延べ利用実績は2178回で、昨年4月から、ぴぶクリニックへの送迎も始まり、医療機関への通院で年間480回も利用されています。

年金受給日など予約が集中する際には、日程の変更をお願いしたり、他の職員で対応しているようですが、今後と同様に日程の変更を求める運用となるのか、混んでいる場合には職員が対応するなど、町民の要望に応えるのか、改善に向けた考えを伺います。

■村中町長 ご不便をおかけしますが、できる限り職員も対応し、利用者の方々の希望に沿うような日時に運行できるよう努めていきたいと思っておりますので、一定のご理解もいただきたいと思います。

□遠藤議員 他町では、利用者の不安や疑問を解消するため、「よくある質問」をホームページ等で周知していますが、本町においても、登録していても利用につなげていない方や、利用方法に不安を感じている方への支援として、周知していただければと思います。

また、現在、第9期高齢者福祉計画と介護保険事業計画を実行しているところですが、町民の皆さんのお力や役場職員の方、皆さんで協力して、この町を良くしたいという方々が一つになることが、今後大切ではないかと思っています。

今後、町民も職員もウェルビーイングの実現のために、幸福度が高まる比布町民であり続けられるよう、町長、保健福祉課が先頭に立って頑張ってほしいと願います。

■村中町長 Q & A方式による周知は、様々な民間の制度でも活用されていますので、これまでの積み重ねの中で質問の多い事項を整理し、プリントにするとわかりやすいと思いますので、参考にさせていただきます。

現状維持ではだめだと思っていますので、これから町民の方々が安心して暮らせるように、様々な制度改正も行いながら進めたいと思いますので、今後ともご指導を賜りますようお願いいたします。

※ウェルビーイングとは

身体的・精神的・社会的に良好な状態にあることを指す。単に「病気ではない」という状態ではなく、自分らしく、生きがいや人との良好なつながりを含めた、持続的な幸福や充実感を意味する。